

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,569	t-CO <sub>2</sub>
（温室効果ガス削減換算排出量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	③メタン		t-CO <sub>2</sub>
	④一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑧三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑨エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑨合計）		1,569

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度		令和 7 年度	令和 8 年度		
温室効果ガス総排出量	1,626	t-CO <sub>2</sub>	1,626	t-CO <sub>2</sub>	1,569	t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率（対 基準年度）			0.0	%	3.5	%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度		令和 7 年度	令和 8 年度		
原単位当たりの排出量										
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
原単位当たりのみなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

<p>・昨年度エネルギー使用量削減の主要因は、14階ワンフロアーテナントの退居（年間電力使用量▲138千kWh）があったため。引続き各施策について鋭意取組んで参りたい。</p>
--

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。  
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。  
 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。  
 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び非化石エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理/エネルギー使用量等の把握及び管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー使用量の計測・記録・分析による使用実態の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー使用量の定期的な把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月次および年次レポートにて各テナント、共用部等のエネルギー使用量について実態把握</li> <li>DHC名古屋㈱との月次定例ミーティングにて情報交換実施</li> </ul>
省エネルギー・省資源の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネ設備の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各何度のLCC計画に於いて、省エネ設備を導入する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的に空調機のオーバーホールやフィルター交換等を実施し、エネルギー効率低下を防止</li> </ul>
省エネルギー・省資源の推進/冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> <li>各テナントの省エネとなる設定温度及び春・秋の効率的な空調利用の協力を求める</li> <li>荷物用エレベーター附室空調稼働時間の短縮化</li> <li>中部電力ミライズ㈱の節電プログラムが実施された場合には参加する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的に各テナントに対し、省エネの呼びかけを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空調監視モニターにて、各テナントの運転状況等をチェックし、適切な温度設定を推奨</li> <li>荷物用エレベーター附室の空調稼働時間の制限継続</li> <li>中部電力ミライズ㈱の節電プログラムへの参加</li> </ul>
省エネルギー・省資源の推進/照明・OA機器・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>各テナントに対し、照度を落して利用及びこまめな消灯（昼休み・未使用の部屋・時間外）の協力を求める</li> <li>自動販売機の不要な照明を消灯</li> <li>各テナントに対しOA機器等スリープ機能の活用促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的に各テナントに対し、省エネの呼びかけを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各テナントへの省エネ意識の醸成</li> <li>室内に設置の自動販売機については照明の消灯継続</li> </ul>

指針第2号様式

(2) 非化石エネルギーの利用の状況

ア 非化石電気の使用状況

指標	非化石電気の使用状況						目標 (2030年度)	
	令和 6年度		令和 7年度		令和 8年度			
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	17.5	%		%		%	0	%

イ 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における非化石エネルギーの利用状況

非化石エネルギーの使用量	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
k1	t-CO <sub>2</sub>

(3) 未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における未利用エネルギーの利用状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ アのうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	未利用エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO <sub>2</sub>
熱		t-CO <sub>2</sub>

(4) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>

(5) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO <sub>2</sub>
-------------------

(6) 電気の需要の最適化に資する措置を実施した日数

日
---

(7) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

- ・ 雨水ならびに空調機ドレン水をトイレ排水に利用し、水道水利用を削減
- ・ 屋上緑化(断熱効果)によるエネルギー使用量を抑制

(8) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

- ・ 空調効率を高めるためにフィルター清掃を実施